

受験番号	
氏名	



2026年度 東京未来大学入学者選抜試験
一般選抜[筆記試験型] B日程(2月12日実施)

国語



【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験時間は1科目60分です。
- 3 原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。
- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机上に置いてください。
- 8 試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。
- 9 その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I 現代文 一般選抜「筆記試験型」 B日程(2月12日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

マルハラという言葉が、2024年の春、新聞やテレビ、ネットを賑わせた。マルとは句点のことで、マルハラスメントを略してマルハラ。中高年がLINEなどのSNSで送信する際、文末に句点を付けることが「アイツ的に取られるという話だ。「連絡をください。」「わかりました。」等の句点が、若者には怒っているように感じられるらしい。

いやはや、なんでもハラスメントになる時代だと驚く。と同時に、世代間でのギャップがコミュニケーションの妨げになるのだとしたら、お互いの感覚を理解して、円満にやりとりをしたいものだとも思う。これはハラスメントというよりは、わりとシンプルな(Ⅰ)ではないだろうか。

若者が、LINEでの会話に句点があることに違和感を抱くのは、それが限りなく話し言葉に近いと知っているからだだろう。(①)「マル」がついていると、あえて付けたように感じてしまう。たとえば日常会話で「わかった」ではなく「わかった、以上!」と言われたような感じではないだろうか。後者には「もうわかったから、このことにいつまでも(A)するな」的なニュアンスが「タダヨウ」。

いっぽうで中高年世代にとっては、LINEといえども画面に文字が出る以上、あくまでそれは書き言葉なのだ。書き言葉であるならば、文末には句点を打つのが当然であると思ってしまう。

(②)若者たちも、いっさい句点を使わないわけではなく、学校のレポートや会社内でのメールなどでは、文末にマルを入れているはずだ。つまり、そこがどういう場なのかの認識の違いである。普段着であいさつしに來たつもりが、年上の人がスーツ姿で現れたら、居心地が悪いし、なんだか自分の服装をとがめられたような気持ちになる。無言の圧力……それがハラスメントと感じられるのではないだろうか。

私は、若い世代とのやり取りでは、一文やひと言で済むときには句点は省略し、長めの文章になる時は付けている。日常的にやり取りしていれば、この人はこういうルールなんだと伝わるので、さほど神経質にならなくてもいい。お互いのルールや感覚を探りあっているときには、年代の違いを考慮するのは有効だと思う。

(③)、マルハラの少し前に「おばさん構文」というのも話題になった。長文で、やたら絵文字や句読点が多いというものだ。こ

こでも句点が、マイナスのイメージで捉えられている。

そこでふと、自分の短歌を思い出した。日本語って、○で終わるんだな、それってなんだか素敵なことだなと思い、詠んだ一首だ。世の中の的には分の悪い句点だが、こういう見方もできるのでは？ と思い、Xに投稿した。

句点を打つのも、おばさん構文と聞いて：この一首をそつと置いておきますねゝ

優しさにひとつ気がつく ×でなく○で必ず終わる日本語

ちょうどマルハラの話題と重なり、またたくまに10万を超える「いいね」がついた。朝日新聞や毎日新聞、読売新聞のコラムでも、マルハラの話題にからめて取り上げられ、反響の大きさに自分でもびっくりした。みなさん（Ⅱ）に気をつかいながらも、どこかで「マルをつけたい」「句点があるほうが落ち着く」「そんなつもりじゃない」と感じる人が多かったのかもしれない。モヤモヤを抱えていたところに「マルで終わるって日本語の優しさでは？」という一首のメッセージが、ダイレクトに届いたようである。

リプライや引用リツイートには「私の文章も、こういう気持ちで見てほしい」「○は怖くない。実は優しい！」「おじさんも助けてくれて、ありがとう」等々、中高年からの喜び（？）の声があふれていた。一首の短歌が、どんなふうに入々に手渡されていくか、可視化されるのがXの醍醐味の一つだ。

ちなみに、ここまで拡散されると、もちろん思いがけないリプライも付く。多かったのは「Xで終わる言語があるんですかね」というもの。いちおう反論というか補足をしておくと、「Xでなく」とは、「今から句点の○を、○Xの○と見立てますよ」という伏線としての表現である。

マルハラ問題に、もうひとつ日本語らしい観点があるとなると、「曖昧表現が好き」というのが考えられる。若い人が「句点で言い切られるのが怖い」というのは、裏返せば「言い切らないで柔らく終わったほうが優しい」という感覚だ。

あつという間に定着した背景には、日本人の曖昧好みがあるだろう。当時、「とか弁」に対して渋い顔をしていた大人たちだって「今度の日曜あたり、ゴルフでもしませんか」というような言い方を好んでしていた。月曜にテニスをすることは、ありえないのだが「今度の日曜に、ゴルフをしませんか」と言つと、ソフトさに欠ける。それと同じ理由で、よりふんわりした表現として「とか弁」は愛され広まった。

だいたい新しい言い回しというのは若い人から生まれて、大人が渋い顔をするというのが定番だ。その若い人から生まれるのが「と

か弁」をはじめ、句点ナシなどの新しい曖昧表現というところが面白い。本質は上の年代と変わっていないとも言える。

もちろん曖昧というのは、決して悪いことではなく、日本語のコミュニケーションにおいては丁寧な印象を与えてくれる。言葉をむき出しではなく、何かにくるんだり、クッションをはさんだりして渡すほうがよしという文化である。ただ、あまりに「カジヨウ」だと、なんというか責任逃れのムードがタダヨって、よろしくないし、誤解を招くことにもなる。「前向きに検討させていただきます」は、ほぼやらないという意味合いだが、外国の人には通じにくい。時にはきっぱりと「無理です」と言ったほうがいい場面もあるだろう。潤滑油としての曖昧表現だが、使いすぎると滑るということを心しておきたい。

（俵万智『生きる言葉』新潮社より 一部改変）

□一 文章中の（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナを漢字に直しなさい。漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

ア	イ	ウ
アイアツ	イタダヨウ	ウカジヨウ

□二 文章中の①・②・③に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	イ	ウ
オ	カ	キ
また	だから	もちろん
		では
		エ
		なぜなら
		ク
		もしくは

□三 文章中の（Ⅰ）・（Ⅱ）に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字二文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

四 文章中の A に入る最も適当な言葉を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 継続 イ 拘泥 ウ 憤慨 エ 断定

五 次に示す段落が本文中から欠落している。正しく挿入した場合、後に続く段落の最初の五文字を答えなさい。（句読点がある場合は、句読点も一文字とする。）

三十年ほど前になるが、若者の「とか弁」というのが話題になった。「映画とか見て」「アイスとか食べて」といった言い回しだ。映画以外は見てなくて、アイス以外は食べていなくても、こういう表現をする。それまでは「とか」と言えば、並列や列挙に用いるものだった。「トマトとかピーマンとかを育てています」といった具合に。今では大辞泉にも、二番目の用法として「断定を避け、あいまいにするために語の後に付ける。『学校とかから帰る』『補説』1990年代前半から若者の間で使われ、すぐに大人にも広まった。多用する話し方を『とか弁』ともいう。」と記されている。

〔六〕 文章に書かれた内容と異なる文を、次から二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 若者たちは、使う場によって句点の使い方を分けている。
- イ 「おばさん構文」には絵文字や句読点が多く使われている。
- ウ 曖昧表現を好むのは、現代の若者に特有の文化である。
- エ 曖昧表現は、日本語においては相手に丁寧な印象を与えることがある。
- オ 曖昧表現は日本人の好みに合致しているので、断定的な言い方は避けた方がよい。
- カ 若者たちに句点を付けて文を送ると、ハラスメントと受け取られることがある。

〔七〕 中高年と若者の句点に関する感覚の違いがなぜ生じるのか、「中高年は」に対して、「若者は」から」という書き方で、四〇字以上五〇字以内にまとめて書きなさい。（句読点や記号も一文字とする。）

Ⅱ

言語事項・文学史 一般選抜〔筆記試験型〕 B日程（2月12日実施）

一

次の①～⑤の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。なお、ひらがなは丁寧に書きなさい。

- ① 固唾を飲む。
- ② 意匠を凝らしたデザイン。
- ③ 完全に会得した。
- ④ 審議会に諮る。
- ⑤ 汎用性が高い。

二

次の①～⑤の四字熟語の空欄に入る、数を表す適当な漢字一字を答えなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

- ① 何度も丁寧におじぎをすること。 「（ ） 拝九 拝」
- ② 物事に迷って思案に暮れること。 「（ ） 里霧 中」
- ③ 永久に変わらないこと。 「（ ） 古不 易」
- ④ いろいろな立場の学者が論争し合うこと。 「（ ） 家争 鳴」
- ⑤ 一昼夜。いつも。 「四（ ） 時 中」

三

次の①～⑤の作者を、四角の中からそれぞれ一人選んで記号で答えなさい。

- ① 『和解』
② 『斜陽』
③ 『古都』
④ 『河童』
⑤ 『潮騒』

ア	大岡昇平
イ	芥川龍之介
ウ	夏目漱石
エ	川端康成
オ	志賀直哉
カ	三島由紀夫
キ	堀辰雄
ク	大江健三郎
ケ	太宰治
コ	菊池寛

Ⅲ 現代文 一般選抜「筆記試験型」 B日程(2月12日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

日本経済はいま、長く続いたデフレーションの出口に立っている。これからの物価 A の原動力となるのは、構造的な人手不足とこれに伴う賃金水準の A である。日本経済の構造が変化するなかで賃金はその行方を左右する重要な変数になっており、長期的な視点に立てば、人手不足の深刻化による労働市場のさらなる需給ひっ迫は、今後も継続的な賃金上昇を引き起こすことになるだろう。

もちろん、現実の経済はそんなに簡単なものではないという異論もあるかと思う。しかし、日々統計データの動向を分析し、かつ企業経営者や個々の労働者の実際の行動を ア タンネンに探っていくなかで、大局的には、これまでさまざまな実証研究によって証明されてきた標準的な賃金決定の理論が現代日本においてもいままお当てはまっているということを、強く実感させられるのである。

(①) 考えれば、人口減少経済の行く先を予想することはそう難しいことではない。今後は賃金上昇を イ バイカイとして労働者の労働参加はさらに拡大し、その一方で企業は省人化に徹底的に取り組むことを強いられる。市場メカニズムが (Ⅰ) を解消するために必要な調整を ウ ナガす展開になるのである。

物価や賃金の動向はあくまで財・サービス市場や労働市場の需給から決定されるものであって、上がるから良くて下がるから悪いという単純なものではない。しかし、価格や需給環境の変化に応じて、各経済主体の行動様式が変わるということもまた事実である。そうであれば、これから恒常的に続くと思われるタイトな需給環境は、はたして日本経済の高度化につながりうるのか。これが今後の日本経済をめぐる最大の焦点になるとみられる。

そして、これは当然に企業の生産性上昇の取り組みが市場環境の変化についてこられるかという点に依存する。(②) 生産性の上昇が追いつかず財・サービス市場や労働市場の価格だけが上がっていくというシナリオもあれば、価格 A に生産性の A がしつかりとついていくというシナリオもありうる。どちらのシナリオが色濃くなるかについては、その時々^{たいてい}の科学技術の動向などにもよることから、ふたを開けてみないとわからないというのが正直なところでもある。

(③) 企業経営者の多くはこの新しい経済の局面に B いる様子をうかがい知ることができる。こうした企業のさまざまな事例を見ていくと、これから起こる物価や賃金の上昇局面に対して、企業の生産性上昇の取り組みがこれについてこられる可能性は十分にあると

感じる。

そうであれば、これからの新しい経済の局面において必要になる考え方は、人が足りないから人を移入させようとか、企業が困っているから補助をしようというような発想ではなく、むしろ日本の企業経営者や個々の労働者が持つ潜在的な力への厚い信頼を基礎として、市場メカニズムに身をゆだねながら必要な調整をウナガしていくという考え方になってくるのではないか。こうした前提のもとでは、政府の政策による関与についてはあくまで市場ではどうしても解決できない問題にとどめるべきであって、民間経済への政府による必要な介入は原則として避けるべきであると思う。

これまでのいつの時代においても、日本経済の高度化をけん引してきたのは民間企業の活力であった。今後、日本社会が市場メカニズムに真摯に向き合うなかで、経済の供給能力が十分に高まっていくことになれば、これから先の日本経済はまた新たな定常に向かう。そこには、従来の農業や製造業だけでなく第三次産業も含め、機械と人が高度に組織化された豊かな経済社会が広がっている。そして、それは世界に比類のない日本独自の経済システムになる。他国に先駆けて（Ⅱ）経済に突入しようとしている日本社会の選択に、世界がいま注目している。

（坂本貴志『ほんとうの日本経済 データが示す「これから起こること」』講談社より 一部改変）

□ 文章中の（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナを漢字に直しなさい。漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

ア タンネン イ バイカイ ウ ウナガす

□ 文章中の①・②・③に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア	では	イ	しかし	ウ	もし	エ	このように
オ	つまり	カ	また	キ	あるいは	ク	まるで

〔三〕 文章中の（Ⅰ）・（Ⅱ）に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字四文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧書きなさい。

〔四〕 文章中の〔A〕に共通する最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、漢字二文字で答えなさい。漢字は楷書で丁寧書きなさい。

〔五〕 文章中の〔B〕に入る最も適当な内容を、次から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 現場の労働者と企業経営者の連携を図りながら労働人口の増加を図ろうとして
イ 失業者の増加を防ぎながら供給能力の上昇を意図した人事を刷新しようとして
ウ 現代の新しい技術を活用しながら現場の業務構造を抜本的に変革しようとして
エ 機械化、自動化の推進を図りながら当面は海外からの人材を確保しようとして
オ 人手不足の解消のために政府の政策による補助を積極的に求めようとして

問題は以上です。

